

2022年9月25日

## 主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒317番 (SK 姉)

『めぐみの主は』

聖書⇒エフェソの信徒への手紙 2:1、4~5、8~9 節 (MM 姉)

『さて、あなたがたは、以前は自分の過ちと罪のために死んでいたのです。..(中略)..しかし、憐れみ豊かな神は、わたしたちをこの上なく愛してくださり、その愛によって、罪のために死んでいたわたしたちをキリストと共に生かし、——あなたがたの救われたのは恵みによるのです——..(中略)..事実、あなたがたは、恵みにより、信仰によって救われました。このことは、自らの力によるのではなく、神の賜物です。行いによるものではありません。それは、だれも誇ることがないためなのです。』

礼拝讃美歌⇒358番 (旧 79 番)

『神の恵み』

聖書⇒詩編 23:1~4 節 (SK 兄)

『主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない。

主はわたしを青草の原に休ませ／

憩いの水のほとりに伴い魂を生き返らせてくださる。

主は御名にふさわしく／

わたしを正しい道に導かれる。

死の陰の谷を行くときも／

わたしは災いを恐れない。

あなたがわたしと共にいてくださる。

あなたの鞭、あなたの杖／

それがわたしを力づける。』

(祈)

礼拝讃美歌⇒331番 (旧 253 番) (KH 兄)

『主イエスはわれの』

聖書⇒イザヤ書 4:1~4 節 (ES 姉)

『見よ、わたしの僕、わたしが支える者を。

わたしが選び、喜び迎える者を。

彼の上にわたしの霊は置かれ／

彼は国々の裁きを導き出す。

彼は叫ばず、呼ばわらず、声を巷に響かせない。

傷ついた葦を折ることなく／

暗くなってゆく灯心を消すことなく／

裁きを導き出して、確かなものとする。

暗くなることも、傷つき果てることもない／

この地に裁きを置くときまでは。

島々は彼の教えを待ち望む。』

聖書⇒マタイによる福音書 12:12~21 節

『人間は羊よりもはるかに大切なものだ。だから、安息日に善いことをするのは許されている。』そしてその人に、「手を伸ばしなさい」と言われた。伸ばすと、もう一方の手のように元どおり良くなった。ファリサイ派の人々は出て行き、どのようにしてイエスを殺そうかと相談した。イエスはそれを知って、そこを立ち去られた。大勢の群衆が従った。イエスは皆の病気をいやして、御自分のことを言いふらさないようにと戒められた。それは、預言者イザヤを通して言われていたことが実現するためであった。「見よ、わたしの選んだ僕。わたしの心に適った愛する者。この僕にわたしの霊を授ける。彼は異邦人に正義を知らせる。彼は争わず、叫ばず、／その声を聞く者は大通りにはいない。正義を勝利に導くまで、／彼は傷ついた葦を折らず、／くすぶる灯心を消さない。異邦人は彼の名に望みをかける。』

(祈)

《パン裂き》

聖書⇒ヨハネによる福音書 6:53~58 節 (KH 兄)

『イエスは言われた。「はっきり言うておく。人の子の肉を食べ、その血を飲まなければ、あなたたちの内に命はない。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠の命を得、わたしはその人を終わりの日に復活させる。わたしの肉はまことの食べ物、わたしの血はまことの飲み物だからである。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、いつもわたしの内におり、わたしもまたいつもその人の内にいる。生きておられる父がわたしをお遣わしになり、またわたしが父によって生きるように、わたしを食べる者もわたしによって生きる。これは天から降って来たパンである。先祖が食べたのに死んでしまったようなものとは違う。このパンを食べる者は永遠に生きる。』

(式)

礼拝讃美歌⇒145 番 (旧 61 番)

『主イエスよわれらは』

《建徳》

聖書⇒使徒言行録 5:17~20 節 (KH 兄)

『そこで、大祭司とその仲間のサドカイ派の人々は皆立ち上がり、ねたみに燃えて、使徒たちを捕らえて公の牢に入れた。ところが、夜中に主の天使が牢の戸を開け、彼らを外に連れ出し、「行って神殿の境内に立ち、この命の言葉を残らず民衆に告げなさい」と言った。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 6:63 節

『命を与えるのは“霊”である。肉は何の役にも立たない。わたしがあなたがたに話した言葉は霊であり、命である。』

聖書⇒使徒言行録 22:22~29 節 (ES 姉)

『パウロの話をここまで聞いた人々は、声を張り上げて言った。「こんな男は、地上から除いてしまえ。生かしてはおけない。」彼らがわめき立てて上着を投げつけ、砂埃を空中にまき散らすほどだったので、千人隊長はパウロを兵営に入れるように命じ、人々がどうしてこれほどパウロに対してわめき立てるのかを知るため、鞭で打ちたたいて調べるようにと言った。パウロを鞭で打つため、その両手を広げて縛ると、パウロはそばに立っていた百人隊長に言った。「ローマ帝国の市民権を持つ者を、裁判にかけずに鞭で打ってもよいのですか。」これを聞いた百人隊長は、千人隊長のところへ行って報告した。「どうなさいますか。あの男はローマ帝国の市民です。」千人隊長はパウロのところへ来て言った。「あなたはローマ帝国の市民なのか。わたしに言いなさい。」パウロは、「そうです」と言った。千人隊長が、「わたしは、多額の金を出してこの市民権を得たのだ」と言うと、パウロは、「わたしは生まれながらローマ帝国の市民です」と言った。そこで、パウロを取り調べようとしていた者たちは、直ちに手を引き、千人隊長もパウロがローマ帝国の市民であること、そして、彼を縛ってしまったことを知って恐ろしくなった。』

聖書⇒使徒言行録 23:11 節

『その夜、主はパウロのそばに立って言われた。「勇気を出せ。エルサレムでわたしのことを力強く証ししたように、ローマでも証しをしなければならない。』

礼拝讃美歌⇒398 番 (KH 兄)

『いのちのみことば』

《建徳要旨》